

# 4

学習のねらい②

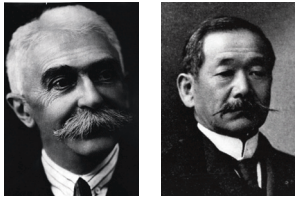
## オリンピックと国際理解



- オリンピズムとオリンピックムーブメントを説明できる。
- オリンピックがどのように変化してきたのか説明できる。

### キーワード

世界平和 オリンピズム  
オリンピックムーブメント



クーベルタン 嘉納治五郎

### 1 オリンピックは世界を1つにする

スポーツの国際交流は、近年ますます盛んになっています。そのなかでも、オリンピック<sup>図1</sup>は諸外国との相互理解や世界平和の促進に大きな役割を果たしています。

オリンピックの創始者クーベルタンは、スポーツによる青少年の健全育成と世界平和の実現を理念としてかけました。この理念をオリンピックと呼びます。オリンピックを実現するために国際オリンピック委員会（IOC）が中心となっておこなう活動がオリンピックムーブメントです。そこには、オリンピックの開催やスポーツの普及活動、アンチ・ドーピング運動、環境の保全運動などが含まれます。わが国でも、嘉納治五郎<sup>ふみきゅう</sup>がクーベルタンの呼びかけによってアジアで最初のIOC委員となり、スポーツによる世界平和の運動を日本に定着させました。

図1 夏季オリンピック参加状況の推移

回	開催地(国名)	開催年	実施種目数	参加選手数	参加国・地域数	
1	アテネ(ギリシャ)	1896	43	241	14	
2	パリ(フランス)	1900	95	997	24	
3	セントルイス(アメリカ)	1904	91	651	12	
4	ロンドン(イギリス)	1908	110	2,008	22	
5	ストックホルム(スウェーデン)	1912	102	2,407	28	
6	ベルリン(ドイツ)	1916	第一次世界大戦により中止			—
7	アントワープ(ベルギー)	1920	154	2,626	29	
8	パリ(フランス)	1924	126	3,089	44	
9	アムステルダム(オランダ)	1928	109	2,883	46	
10	ロサンゼルス(アメリカ)	1932	117	1,332	37	
11	ベルリン(ドイツ)	1936	129	3,963	49	
12	東京(日本)	1940	第二次世界大戦により中止			—
13	ロンドン(イギリス)	1944	第二次世界大戦により中止			—
14	ロンドン(イギリス)	1948	136	4,104	59	
15	ヘルシンキ(フィンランド)	1952	149	4,955	69	
16	メルボルン(オーストラリア)※	1956	145	3,314	72	
17	ローマ(イタリア)	1960	150	5,338	83	
18	東京(日本)	1964	163	5,151	93	
19	メキシコシティ(メキシコ)	1968	172	5,516	112	
20	ミュンヘン(旧西ドイツ)	1972	195	7,134	121	
21	モントリオール(カナダ)	1976	198	6,084	92	
22	モスクワ(旧ソ連)	1980	203	5,179	80	
23	ロサンゼルス(アメリカ)	1984	221	6,829	140	
24	ソウル(韓国)	1988	237	8,391	159	
25	バルセロナ(スペイン)	1992	257	9,356	169	
26	アトランタ(アメリカ)	1996	271	10,318	197	
27	シドニー(オーストラリア)	2000	300	10,651	199	
28	アテネ(ギリシャ)	2004	301	10,625	201	
29	北京(中国)	2008	302	10,942	204	
30	ロンドン(イギリス)	2012	302	10,568	204	
31	リオデジャネイロ(ブラジル)	2016	306	11,238	207	

※検疫の関係で、馬術はストックホルム(スウェーデン)でおこなわれた。

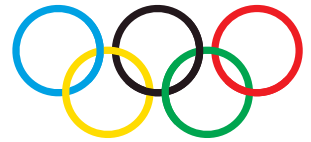
世界が多くの難題に直面するいま、オリンピックムーブメントは、ますますその存在意義を大きくしています。

## 2 オリンピックは変貌する

オリンピックは、回を重ねるにつれてグローバルなイベントになりました。その最初のきっかけは、1908年の第4回ロンドン大会でした。参加が国内オリンピック委員会単位と決まったことで、オリンピックは国と国の戦いであるとする考えが強くなりました。そして、1984年の第23回ロサンゼルス大会でオリンピックが経済的利潤を生み出すことがわかると、今度はビジネス化が急速に進みました。それまで参加を禁じられていたプロの選手が参加を許され、活躍するようになったのです。

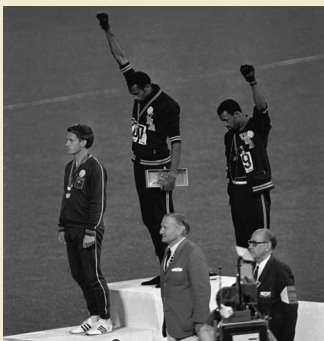
オリンピックは、世界が注目する大きい大会になるにつれて、さまざまなアピールがおこなわれる場にもなりました。1968年のメキシコシティー大会で、黒人アスリートが表彰台の上でおこなった人種差別に対する抗議、また1980年のモスクワ大会で、ソビエト（現ロシア）のアフガニスタンへの軍事侵攻に抗議してアメリカや西ドイツ、日本などがおこなった大会参加のボイコットなどです **図2**。

これらのことは、オリンピックが政治や経済などの社会問題と無関係でいられない現実を示しています。オリンピックは、時代とともに変貌し、また、さまざまな問題を解決しながら、前進を続けています。



オリンピックシンボル

### 図2 さまざまなアピールがおこなわれたオリンピック



メキシコシティー大会陸上競技男子200m走での表彰式。1位と3位のアメリカ人選手が人種差別に抗議して黒手袋をかかげた。



参加ボイコットを悲しむモスクワ大会のマスコット「ミーシャ」の涙。



やっ  
て  
みよう

● オリンピックがこんなにちのように発展した理由について話しあってみよう。



# 世界の民族スポーツについて調べてみよう



## 1 民族スポーツを知っていますか

こんにち地球上の各地では、オリンピックとは無縁<sup>むえん</sup>のスポーツが数多くおこなわれています。こうしたスポーツを初めて見ると、私たちはカルチャー・ショックを受けたり、驚いたりしてしまいます。ところが、それらのスポーツがおこなわれるには一つひとつ理由があります。たとえば、中国のドラゴンボートレース（龍船競漕<sup>りゅうせんきやうそう</sup>）⑥は、田に植えたばかりの稲を育てるのに必要なたくさんの水を龍神<sup>りゅうじん</sup>に願うためにおこなわれたものです。また、オランダのフィーエルヤッペン②は、橋のない運河<sup>うんが</sup>を棒<sup>と</sup>を使って跳びわたる生活の知恵が競技化されたものです。

このようなスポーツは、民族（エスニック）スポーツと呼ばれています。民族スポーツは、これをおこなう人たちの伝統的な生活文化から生まれ、その土地土地の固有<sup>こゆう</sup>の文化をあらわしています。

5

10



**①ケイパー（スコットランド）**  
助走をつけて丸太（ケイパー）を投げ、空中で回転させる。もつともまっすぐ前方を向いて倒れたものが勝ちとなる。丸太は、直径10～20cm、長さ4.5～7m、重さ70kg前後。



**②フィーエルヤッペン（オランダ）**  
棒に勢いよく飛びつき、よじ登りながらどれだけ遠くの対岸に着地できるかを競う。棒の長さは8～11m。



**③ブズカシ（中央アジアの諸民族）**  
馬に乗って、羊の胴体をボールがわりに奪いあってゴールまで運ぶことを競う。いわば騎馬ラグビーである。



**④ヌバ族の相撲（アフリカ）**  
相手の背中を地面につけたら勝ちとなる。体に塗った白い灰は、永遠の生命と男らしさのシンボルとされる。



## 2 スポーツで世界と交わり、世界を知る

現在おこなわれているスポーツは、国際スポーツと民族スポーツとに分けられます。国際スポーツは世界の人びとが共有するスポーツのことで、近代オリンピックがきっかけとなって生まれました。これに対して民族スポーツは、特定の国や地域、あるいは民族にかぎっておこなわれるもので、その人びとの独自の文化を身にまっています。人びとは民族スポーツを実践するなかで、民族らしさ（アイデンティティ）を身につけていく1つの機会を得ています。

国際スポーツと民族スポーツは、このように性格が異なります。グローバリゼーション<sup>◆</sup>をもたらす世界の標準化の流れのなかにあらわれたのが国際スポーツとすれば、民族スポーツは反対に、民族文化を尊重<sup>そんちゆう</sup>する考えのなかに生まれたスポーツといえます。国際スポーツによって異文化の人びとが交流し、民族スポーツによって異文化を知ることができるのです。このように国際スポーツと民族スポーツは、国際理解を深めるうえでとても重要な働きをしています。

世界各地にはさまざまな民族スポーツが存在しています。どんな民族スポーツがあるか調べてみましょう。

### 5 ブランコ競技（朝鮮民族）

10mをこえるブランコの高みに鈴をたくさんつけたなわを張り、一定時間内に何回鈴を鳴らすことができたかを競う。東洋、西洋を問わず、ブランコは女性のスポーツであった。



### 7 大綱引き（沖縄）

稲ワラで巨大な男綱と女綱をつくり、これら結びあわせて1本にして引きあう。重さは合計10トンにもおよぶ。



### 6 ドラゴンボートレース（中国）

へさに龍の飾りつけをした細長いボート（ドラゴンボート）のレース。



### 8 トラチトリ（メキシコ）

重さ5kg、直径25cmほどの生ゴムを固めた重いボールを、2チーム対抗で、腰を使って打ち返しあう。ボールは天体の象徴とされた。

